

# L R T 導入による地域内公共交通ネットワーク提案事業

## —石井地区における地域内交通のあり方—

事業代表者 地域デザイン科学部・教授・中村祐司

### 1. 事業の目的・意義

宇都宮市におけるL R T（次世代低床式路面電車。2022年春に開業予定）の建設に注目が集まる中、各駅を拠点としたまちづくりのあり方が重要課題となりつつある。とくに地域内交通についてはL R Tと連携した再構築が不可欠となっている。本事業では、L R Tと連携した地区内交通のあり方を検証・検討・提案することで、地域課題解消に貢献することを目的とした。

### 2. 研究方法（又は事業内容）

地域デザイン科学部の所在地に隣接する石井地区では、公共交通委員会において地区内のコミュニティ交通の検討に入っている。とくに石井地区および陽東地区といった地区レベルに注目して、商業施設、医療機関、金融機関、コミュニティセンター等をジャンボタクシーやコミュニティバス等で結ぶ交通システムや住民の移動手段の在り方を地区説明会等への参加を通じて考察した。

具体的には、宇都宮大学行政学研究室に所属する学部生や大学院生とともに、宇都宮市における地域交通をめぐる諸課題を明確にした上で、石井地区における住民による地域内交通の検討会への参加、宇都宮市のまちづくり提案における地域内交通の提案、市内外の地域交通の現況視察を通じて、地域内公共交通ネットワークのあり方を追求した。

### 3. 事業の進捗状況

#### (1) 石井地区公共交通検討委員会への参加（2018年6月4日）

2018年6月4日、宇都宮市石井地域コミュニティセンターにおいて開催された石井地区交通検討委員会に研究室所属のメンバー（学部生2名と

大学院生4名）が参加し、石井地区における定時定路方式やデマンド方式について把握した。また、利用可能者、登録方法、可能到達地、予約方法、運賃、運行時間帯、乗車地から目的地までのルートなど基本的事項について学んだ。その後具体的な四つのルート案（図1）について理解を深め、委員同士の意見交換に耳を傾けた（写真1）。



図1 石井地区における地域内交通のルート案④  
(石井地区公共交通委員会の資料より)



写真1 石井地区公共交通検討委員会の様子  
(2018年6月4日 中村撮影)

#### (2) うつのみや学生まちづくり提案で発表（2018年12月20日）

こうした経験を踏まえて、研究室所属のメンバー（院生3名）が、結果的に提案対象地区は石井地区や陽東地区に限らないものとなったものの、宇都宮市における地域内交通のあり方について調

査研究を行い、2018年12月20日開催のうつのみや学生まちづくり提案において、「中国配車アプリの導入—清原地区をモデルとして—」と題する提案発表を行った。

そのポイントは、①伝統的な交通方式を変え、ユーザーがモバイルインターネットの時代をリードするモバイルネットワークの特性を使用して、乗車・降車位置を簡単に指定し、キャッシュレスで降車がスムーズな通行モードを確立する。②公共交通利用空白地域や地域内交通の欠如、地域市民、流動人口に適応した交通手段を補足する一つ手段として提供する。③ディディ会社の特別な運営手法により、モバイル乗客と配車とのより効率的なマッチングを可能にし、効果的にレンタルし、乗客が乗車の難しさを減らす。快適性、安全性、スピードに応じる交通手段を提供する、というものであった。

図2は発表当日に提示したポスターで、写真2はその際の対応の様子である。



図2 うつのみや学生まちづくり提案における地域内交通についてのポスター発表（イメージ）



写真2 うつのみや学生まちづくり提案におけるポスター発表

### (3) 県央地域公共交通モニターツアーへの参加

さらに、研究室所属のメンバー（院生2名と研究生1名）は、石井地区における地域内交通のあり方を求めて、県央地域公共交通利用促進協議会が2019年1月16日に開催した、市貝町～茂木町の社会科見学ツアーに参加した（図3は上記協議会作成のパンフレット）。

既存の公共交通のみを用いて、地区内や地区間を実際に移動することで、地域内交通の具体的導入のあり方を終日かけて探った。



図3 県央地域公共交通モニターツアーのパンフレット（イメージ）

当日は以下の写真にあるように、単に公共交通を使つての移動のみではなく、花王（市貝町）やふみの森もてぎ（茂木町）への訪問など、移動の結節点（駅やバス停）と施設とのアクセスの状況を経験することとなった。



写真3 花王株式会社栃木工場（市貝町）



写真4 七井駅（真岡線、益子町）

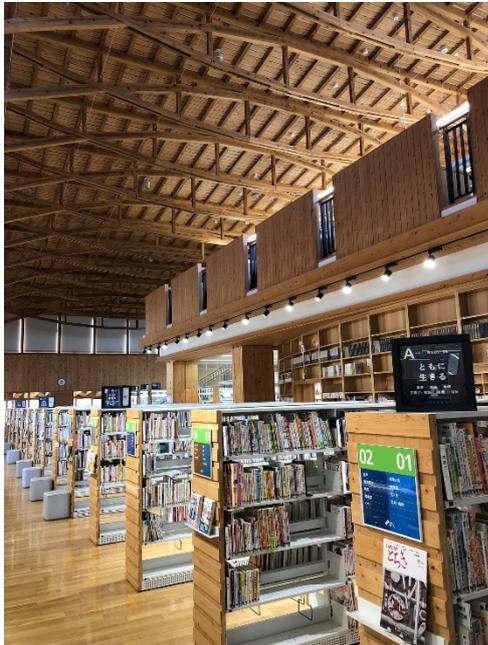


写真5 ふみの森もてぎ（茂木町）

#### (4) 石井地区における利用意向調査

先述の宇都宮市石井地区では、石井地区地域内交通に関する利用意向調査が住民に配布された（2018年12月現在。集計結果は今後）。その中

では、図4のように詳細な質問項目が設定されている。



図4 地域内交通利用意向調査（石井地区）

#### 4. 事業の成果および今後の展望

以上のように、LRTの導入を見据え、地区レベルにおける地域内交通のあり方を学ぶと同時に具体的な提案に結び付けた点が本事業の成果である。

超高齢化社会の到来を見据え、今後、LRTの敷設そのもの以上に、各駅と地区、地区内のコミュニティ交通をどうするかが問われるようになる。

その意味で住民が地域の足をどう確保するかは極めて重要な課題である。同時にその際には行政依存ではなく、自助、共助、公助の均衡のあり方について地域毎に見出していかなければならない。

宇都宮市によれば、このまま人口減少・少子高齢化が進み、「このまま何もしない場合、30～50年後のまちの姿」として、①身近なところに病院や買い物をする場所が無くなってしまう。②車を運転できない人は、バスなどの運行本数が減り、不便になってしまう。③車に頼らないと生活できないので高齢者の交通事故が増えてしまう、という三つの危惧を提示している（宇都宮市総合政策部交通政策課等「宇都宮市が目指す将来の姿—ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりについて—」2017年9月）。

住民による移動の自由は、地域市民権ともいえる。今後も調査研究を継続し、足元の貴重な素材を対象に地域内交通の導入に関わっていくことで、現場発の助言・提言につなげていきたい。